

闇バイトの原因と警視庁が出来る対策

山本 樹

- 1, はじめに
- 2, 闇バイトとは
- 3, 考えられる原因
- 4, 対策
- 5, 終わりに

1, はじめに

近年若者の SNS の利用率はとても高く、2022 年では中学生が 97.3%、高校生が 98.9%、大学生が 97.9%とどの世代においても非常に高い割合となっている¹。そのような状況の中で令和 5 年の 1 月から 5 月までの闇バイトを要因として検挙した被疑者を対象調査したところ SNS からの応募が全体の 46.9%となっている²。

そのため、社会人と比べお金がない若者がいつ闇バイトに巻き込まれていてもおかしくない状況だといえる。現実問題、特殊詐欺の受け子や出し子等で検挙されている少年がいることを様々なメディアで見ることもしばしばある。

本稿では闇バイト自体の原因を分析し、原因から引き出される対策を私が今年の 4 月から務めることとなる警視庁に重きを置いて探っていきたい。

2. 闇バイトとは

前提として「闇バイト」という言葉は造語であり、決まった定義づけはされていない。したがって、この章では次章からの展開をより明確なものにするために闇バイトの定義づけをしていく。

警視庁では「SNS やインターネットの掲示板には、仕事の内容を明らかにせずに著しく高額な報酬の支払いを示唆するなどして犯罪の実行者を募集する」ことが闇バイトの危険性として挙げられている³。また、兵庫県警においては闇バイトを「SNS やインターネット掲示板などで、仕事の内容を明らかにせずに、短時間で著しく高額な報酬の支払いを受け取れるなどと甘い言葉で誘い、特殊詐欺の受け

¹ 総務省通信利用動向調査 六頁

https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/240607_1.pdf

² 警視庁総務省通信利用動向調査 四頁

https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/240607_1.pdf

³ 警視庁ホームページ

<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/yamibaito/hanzaishaboshu.html>

子や出し子、強盗の実行犯など、犯罪組織の使い捨てとなる実行者を「アルバイト」と称して募集しているもの」と示している⁴。

上記の2点から本稿では闇バイトを「SNS やインターネット等で短時間且つ高額な報酬を前面に出すことによって特殊詐欺等の犯罪行為の実行をさせるものを採すもの」とする。

3. 考えられる原因

前提となる定義づけが完了した中で対策を練っていくために必要な原因を考察していきたい。

私が原因だと思われる要素は大きく分けて4点ある。

第一に、SNS 利用者（特に高校生、大学生等の若者）の増加である。この点について詳しく述べると SNS の利用率は1章でもわかる通りほぼ全員が使っている状態となっている。そして、現状闇バイトの多くが SNS での募集が高い割合を示していることも1章で分かる。したがって若者が SNS を見る機会が多い都合上、闇バイト関連の情報を得て、最悪の場合闇バイトに加担する可能性が上昇してしまうと考えられるため利用率の高さは原因の一つといえる。

第二に、経験の浅さである。この点について詳細に述べるとバイトの経験や周りで働いているものが社会人と比べ少ないことでバイトの適切な金額や正規のバイトがどのようなものかわかっていない若者は多いと考えられる。また、闇バイトを実行するまで、した後でないとも犯罪行為かどうか分かっていない未成年も一定数入るだろうと考えられる。そのような経験の浅さから闇バイトのサイトを見た時でも違和感や不信感を思わず宇保していく流れが出来てしまうのではないか。

第三に、コロナの流行による相談できる者の数の低下である。闇バイトをやりそうな場合においても途中で友達や部活の先輩等、自分と身分に近いものに聞くことにより事前に防ぐことが容易である。しかし、コロナが流行したことにより他者と濃密な関係を築くことがより困難になったことで気軽に相談できる相手の数も相対的に減少しているといえる。

第四に、SNS（特に X やインスタグラム）の特性である。総務省の調査によるとLINEの実名利用率が62.8%なのに対しインスタグラムの実名利用率が31.9%、

⁴ 兵庫県警ホームページ

<https://www.police.pref.hyogo.lg.jp/seikatu/yami/index.htm#:~:text=%E9%97%87%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%88%E3%81%A8%E3%81%AF,%E5%8B%9F%E9%9B%86%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%82%82%E3%81%AE%E3%80%82>

X（旧ツイッター）が23.5%ととても低い割合となっている⁵。闇バイトだと気づき周りに相談しようとしても「どうせわかってくれない」等の心理的な障壁から親や学校の先生に聞きづらくなってしまう場合も考えられる。そのため、実名とは関係のない名前を使うことで事件に巻き込まれそうになった際近くの大人に相談しにくくなってしまうため闇バイトに巻き込まれやすくなってしまう要因の一つであると感じた。

4. 対策

2章、3章と前提を確立していくことが出来たためこの章では本題である睿市長が行える対策について考察していきたいと思う。また、対策を考えるにあたっては前章で導いた原因を用いていく。

私が考える対策は大きく分けて三点ある。

一点目として「未成年のSNS種類別使用率を求め、広く使用しているSNSに闇バイト防止の広告が載るようにする」ことである。具体的な内容落としては、今現在行われているユーチューブやテレビ、電車での闇バイト対策の広告をさらに拡張していくことである。しかし、拡張する際には改善が必要な点はいくつかあり、実際の事案では一見すると正規のバイトに見えるような言葉が使われており、闇バイトかどうかの判断が難しい点をもっと広告で強調して伝えるべきである。また、ユーチューブの広告の時には60秒のスキップすることが出来ない広告にすることで十分に警鐘をすることが可能であると感じる。ほかにも、未成年が特に利用しているSNS（Xやインスタグラム、TikTok等）にも動画の広告が出やすくなることでどのような状況の若者に漏れがなく闇バイトの危険性を伝えることが出来ると考えられる。

二点目として「小中高の中でも特に人口が多い都市部の学校に警察官が赴いて授業を行う」ことである。授業をするに際しては具体的な事案を用いての授業が大切である。例えば実際にあった事案の中には「封筒を受け取る仕事」という内容で募集があり最終的に脅迫され犯罪行為をしたものや「夜道での猫探し」という内容での求人では実際は、猫がレクサスを指す隠語で高級車を事前に探す犯罪の準備の手伝いをしていたものもある。そのため、具体的な事案をだすことでより親身になって考えることができ、事件に巻き込まれる人数を減らすことが出来ると感じる。

⁵ 総務省 ソーシャルメディアの普及がもたらす変化

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242220.html#:~:text=%E3%81%9D%E3%82%8C%E3%81%9E%E3%82%8C%E5%AE%9F%E5%90%8D%E5%BC%88%E6%9C%AC%E5%90%8D%E5%8F%88%E3%81%AF%E3%81%93%E3%82%8C,2%2D2%2D4%EF%BC%89%E3%80%82>

また、授業の内容として他にも加えるべき点として他のアルバイトの相場と比べどの程度不自然に闇バイトが高額であるかを伝えるべきである。前章でも述べた通り未成年は社会人と比べ社会経験も少なく、ましてやアルバイト自体をしたことがないものも十分に存在するため金額のことを十分に伝える必要があるといえる。ほかにも、警察官が実際に学校に赴いて授業をするメリットとしては生徒が日頃関わっている先生や両親と比べ会う機会や幻覚性が大きく異なりより効果があると考えたためである。

三点目として「相談できる警視庁の部署や電話番号があることを未成年の間で周知してもらう」ことである。脅迫され犯罪行為を実行してしまう前に警察に相談することが出来れば事件を事前に防ぐことが容易になる。そのために、広く相談に乗ってくれる警視庁相互相談センターの電話番号である#9110や少年問題を担当するヤングテレフォンコーナー、警視庁少年育成課相談係を知ってもらう必要がある。上記で挙げた三つの機関の中でも特にヤングテレフォンコーナーの存在がまだ浸透していないため広告を出すことで広く未成年に対して伝達していくべきである。

5. 終わりに

私は今回のレポートで一番知りたかった対策について現在行われている対策から考察することでより効果的なもの考えることが出来た。しかし、社会状況や家庭環境等は時代が進むごとに変化していき、その結果闇バイトの形態もさらに複雑なものになると思われる。そのため、対策自体はその都度原因に基づいて効果的なものを時代観に合わせ精査する必要がある、将来就く警視庁でもその考えを胸に対策を考えていきたいと思う。